

主題はゴシック体
20pt 太文字で中央
寄せ

日本語教育連絡会議の意義とは何か

—鉄のカーテンの崩壊と発表テーマの変化との関係—

副題はゴシック
体 16pt で中央寄
せ

氏名（所属名）はゴシック体 12pt
で右寄せメールアドレスは同じく
ゴシック体 12pt でバランスよく

東欧花子（東ヨーロッパ大学）
touou@hanako.ac.jp

ゴシック体 10pt

【要約】

本研究は、日本語教育連絡会議での発表テーマが鉄のカーテン崩壊後、どのように変化していったかを明らかにするものである。……（200文字程度）

本文は明朝体 10pt

ゴシック体 10pt

1. はじめに

1946年3月、イギリスの前首相であったチャーチルが、アメリカ大統領トルーマンに招かれアメリカのミズーリ州フルトンの大学でおこなった演説の中で、「バルト海のシュテッティンからアドリア海のトリエステまでヨーロッパ大陸を横切る鉄のカーテンが降ろされた。中部ヨーロッパ及び東ヨーロッパの歴史ある首都は、すべてその向こうにある。」と述べた事によって、「鉄のカーテン」という言葉が東西冷戦の緊張状態をあらわす言葉としてさかんに用いられるようになった。鉄のカーテンは、1989年、時のハンガリー首相ネーメト・ミクローシュによる「ピクニック計画」によりその崩壊が始まったのだが……

本文は明朝体 10pt

- ・見出し：1.、2.、3. 1.1、1.2、1.3、
- ・注：脚注。注番号は本文の該当箇所には肩付き数字で、^{1.2.3.} と入れる。
- ・図表写真：通し番号を付し、必ず表題をつける。（表番号と表題は表の上、図番号と図題は図の下に記載する。）

参考文献

- ・日本語による文献（以下、日本語文献）と、外国語（英語、中国語など）による文献（以下、外国語文献）とを、それぞれまとめて、日本語文献、外国語文献、の順に記載する。
- ・日本語文献は、第一著者の姓の五十音順に配列し、外国語文献は第一著者の姓のアルファベット順に配列する。

余白は上下左右 25mm

行数：39

1行の文字数：43

記載すべき情報：

- ・原則として『日本語教育』に従います。<http://www.nkg.or.jp/journal/j-yoryou.htm>
- ・漢字かな（明朝体 9.5 pt）、ローマ字その他（TIMES NEW ROMAN, 9.5pt）

記載例

1. 単行本<単著, 共著>の場合

横山紀子（2008）『非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究』ひつじ書房
Anderson, J. R. (1983) *The architecture of cognition*. Cambridge, MA: Harvard University Press.

2. 単行本<分担執筆>の場合

松見法男（2002）「第二言語の語彙を習得する」海保博之・柏崎秀子（編）『日本語教育のための心理学』第6章, 新曜社, pp.97-110.

MacWhinney, B. (1989) Competition and connectionism. In B. MacWhinney, & E. Bates (eds.), *The crosslinguistic study of sentence processing*. New York: Cambridge University Press. pp.422-457.

3. 学術論文の場合

宇佐美洋・森 篤嗣・広瀬和佳子・吉田さち（2009）「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響—文脈の中での意味推測を妨げる要因とは—」『日本語教育』140号, 48-58.

小柳かおる（2002）「Focus on Form と日本語習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』第5号, 62-96.
Papagno, C., Valentine, T., & Baddeley, A. D. (1991) Phonological short-term memory and foreign-language vocabulary learning. *Journal of Memory and Language*, 30, 331-347.

4. 学会発表予稿集（論文集）の場合

迫田久美子・松見法男（2005）「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究（2）—音読練習との比較調査からわかること—」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』, 241-242.

5. 教科書の場合

日本花子・東京次郎・大阪美子（編）（2006）『上級者のための日本語(2)—読解編—』日本語教育書房

6. インターネット情報の場合

日本語教育投稿規定<<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/journal/j-yoryou.htm>>（2009年11月20日）